

広島工業大学

同窓会誌



第25号
1991年

閑中忙 鶴 學長 裏

目次 —MOKUJI—

1. Message 学長 鶴 襄	1
2. 同窓会長あいさつ	2
3. 教育情報部から一就職	3
4. 会員だより	4
5. 大学は今	7
6. 在学生の活躍	10
7. 支部だより	11
8. 寄附者ご芳名	14
9. 平成2年度同窓会奨学生ほか	15
10. 平成2年度議事録	16
11. 広島工業大学同窓会会則	17

広島工業大学学歌

歌詞 広島工業大学選定
作曲 井上 住

緑なる 緑なる三宅
深きわれの 御倉を開き
倫哲愛を誇る 我等が学府
見よや行くて 精気の学士
研学の道 寄りてぞ極む
ああ 広島工業大学

広島工業大学応援歌

作詞 恩知 紀子
作曲 伴 谷 晃二

正気 研す 三宅の尾根に
若人 われら 力の限り
羽博け 勝利の天空へ
フライフライフライ
見せばや 工大 スピリット
勝て 勝て 勝て
われらの 広島工大



足ることを知れ

広島工業大学学長 鶴 襄

お陰様で大学を設立して30年が過ぎた。卒業された同窓生諸君の中には、48歳を迎えられた方もおられると思う。ちょうどその年齢は奇しくも私が大学を創設した時と同年齢にあたる。実社会に出て豊かな経験を積んだ年配の方々、それぞれ要職に在って経営にファイトを燃やしていることと推察する。

さて、最近どう考えても地球上におかしな現象が多すぎるように思う。私の幼い頃に比べて妙に天候が不順である。大寒を迎えたといっても雪の降る回数・量も減っているように思う。飲む水にしても美味しくない。気のせいか空気も甘味が少なく、これまた大きく息を吸い込むのも躊躇される。

川、海の色も茶褐色で子供の時のように飛び込んで泳ぐ気にもならない。川や海に棲息する生物の中には奇形が多く、正常な遺伝子を持って美しく生まれてこれない状態である。昨年までは美しさに見とれていた樹木や林が酸性雨とやらで枯れてゆく。天地万物が存在する自然界は確実に破壊され死滅しつつあるような気がする。

これらの原因はいずこにと思いを巡らしてみると、その元凶は人類の欲望のように思える。人類以外の全ての生物は神より与えられた自然界の掟に従い食物連鎖によって生命を保ち生きている。これに比べて人間は、飽くなき欲望のままに生きて地球破壊を進めつつある。

弱い動物を襲い、喰べる百獣の王ライオンといえども、腹一杯喰べた後は美味しい動物が目の前に居ようと見向きもしない。動物は生存に必要な量しか喰べないので

あり、共存の摂理に従う範囲内で生存しているのである。これに比べ先進諸国の人間の行いを見る限り、万物の霊長と自負しながらあらゆる糧を手にし、富を独占しながらなお求めて止むことの無い欲望は動物にも劣る醜さである。

第3世界の国々の中には、生きるに必要な最小限度の食糧さえ得られない人々が数多く存在していることを知りながら、糧を分かち合い共存することに無関心であるといった心の貧しさが、目には見えない形で自然のサイクルを狂わせているとも言える。

あるいはまた、先進諸国の人間は目的地に一刻も早く到達したいため、1分でも早く競争し合ってスピード狂になってしまう。スピードを1分早めることは地球環境の悪化を1分速めることになるのだ。

こうして、口では高度に発達した文明を批判し、さも偉そうなことを言ったけれども、私の為している日常的な行為は先進諸国の一員としての活動であり、私自身が地球環境破壊の犯人の一人であるということに変わりはない。では、どうすれば良いのかと自問自答しているうちに、次のようなターゲットが見付かった。

それは、「足ることを知れ」という言葉である。言い換えれば「節約」ということである。これを日々実行して行くという誓いを立てて提言としたい。

写真(上)は「第4回大学と同窓会合同委員会」の

冒頭で会員に今後の抱負を語る学長(1990.12.14)



母校30周年と私学経営に思う

広島工業大学同窓会会長 永見 憲吾

卒業生の皆さん、おめでとうございます。同窓会も26周年を数え皆さん方を迎えて20,000名を越える会員数となって参りました。本年はまた、母校広島工業大学が短大時代を含めて丁度30周年に当る、誠におめでたい年とも重なります。この間、鶴学園も中学校より大学、大学院にいたるまでの教育機関として、中国地方でも有数の規模を誇るまでに発展して参りました。

一方、本年は中東の湾岸戦争が勃発し、国際社会も大変な時代を迎えております。それと共に、これからの時代は私学受難時代と言われ、学生、生徒の減少による私学経営の難しい時に直面しております。

鶴学園に於ては、これらの諸情況に対して、今何が一番大切であるかということを考えておられますが、やはり大切なことは「教育内容の充実」であり、それを支える「優秀な教授陣の確保」という基本に戻るのだと思います。

また、鶴学園の建学の精神を、社会の変化、時代の変化に伴うカリキュラムや教育体制の改革に一層込み込ませてゆくことも肝要であると思います。付属工業高校、付属高校では、そういう意味で新しい試みを進めているとされています。さらに、レベルの高い私学として発展させていくためには、合格レベルのラインを下げないで全体的に粒の揃った学生を入学させていくことが大切であると言われております。

このような考え方の中にあつて、私たち卒業生は、社会に巣立って、私たち母校の誇り高き建学の精神を具現化し、実行していく立場にあると思います。それと共に現代は国際社会の出来事が身近に感じられるほど、超情報化社会に移行しております。日本では非ノイマン型のコンピューターがすでに開発され、来年には実用化される見通しと聞いておりますが、世の中は色々な意味で大変革の時を迎えているようです。

これからの私学受難の時代にあつて、私たち同窓会が母校に対して、どのようなお手伝いが出来るのか、同窓会としても真剣に考えなければならない時に来ているように思います。これからも母校と相協力し、情報交換をより一層密にし、この組織が母校にとって、また、私たち同窓生同志にとっても互いに有意義に活用される組織体制に形づくられていかなければならないと思っております。

昨年から今年にかけても、各地で支部組織が発足されてきておりますが、一步一步着実にこの組織が広がっていくことを願つてやみません。今年も同窓生にとって良い年でありますよう、お祈りいたします。

写真は「第4回大学と同窓会合同委員会」にて

中央が永見氏

教育情報部だより

教育情報部長 川島 和俊



卒業生の皆様には既にお知らせしておりますが、平成2年度から旧就職部は就職斡旋業務に学生募集と広報活動の機能を加えて、教育情報部という名称のセクションに改組されました。要するに、教育情報部は学内と学外との間の教育情報の媒体となるセクションであって、皆様とは今後密接な係りを持つこととなります。

平成3年度の入学試験は、11月下旬に推薦入試、2月上旬に一般入試の日程で実施されて、応募者は推薦入試で約1,400名、一般入試で約7,600名でした。約1,000名の募集定員に対して延べで約9,000名もの応募者があったことになります。しかし、皆様

もご承知のように、近いうちに大学進学該当年齢人口の急減期を迎え、その影響を本学も逃れることはできません。そのときには、皆様の積極的なご協力をお願いすることになると思います。このたびも、各地方の入学試験会場では、多数の卒業生に試験監督などのお手伝いをさせていただきました。

平成2年度就職戦線は超売り手市場といわれ、卒業生の活発なリクルート活動も相俟って、学生の多くは希望する企業に内定したようです(その状況については別表を見てください)。しかし、日本経済の先行きについて懸念材料が現れつつある状況において、平成2年度の企業の求人

は若干の変化の兆しが見られ、平成3年度の就職戦線は量的充足より質的充足へと転換がはかられていくものと思われます。教育情報部としても、それなりの対応が必要であると考えています。最後になりましたが、皆様の益々のご活躍を期待いたします。

別表1 平成2年度業種別・資本金別内定状況

業種	5億円以上		5億円以下		計	
	内定者数(人)	内定比率(%)	内定者数(人)	内定比率(%)	内定者数(人)	内定比率(%)
建設業	177	22	36	5	213	27
製造業	214	27	95	12	309	39
サービス業	23	3	139	17	162	20
その他	55	7	34	4	89	11
公務					22	3
計	469	59	304	38	795	100

別表2 平成2年度業種別・地域別内定状況

業種	関 東		近 畿		広 島 県		そ の 他		計	
	内定者数(人)	内定比率(%)	内定者数(人)	内定比率(%)	内定者数(人)	内定比率(%)	内定者数(人)	内定比率(%)	内定者数(人)	内定比率(%)
建設業	124	16	43	5	30	4	16	2	213	27
製造業	97	12	76	9	98	12	38	5	309	39
サービス業	58	7	13	2	73	9	18	2	162	20
その他	25	3	3	1	50	6	11	1	89	11
公務			1	1	15	2	6	1	22	3
計	304	38	136	18	266	33	89	11	795	100



電子工学科を卒業して、今年で5年目を迎えました。在籍時、お世話になった先生方や友人の顔を懐かしく思いだしながら、この原稿を書いております。

そこにはいろいろな顔がありました。実験中に器具を壊した時の先生の怒った顔や広島工業大学上の駐車場で車を溝へ落とした時の友人たちのあきれ顔など、大変懐かしく感じられます。

その中でも、一番よく覚えているのは広島大学大学院に進学が決まった時に、自分のことのように喜んでくれた先生の顔です。卒業後は就職と決めていた私に、進学を勧めてくれました。この時点で私の人生が大きく変わったと言っても過言ではないと思います。今となっては大変感謝しています。また、自我の強い私のわがままを聞き入れてくれたり、様々な悩みに応えてくれました。本

広島大学大学院の

博士課程後期に在籍して

当にお世話になりました。これからよろしくお願い致します。

ここ何年も会っていない友人たちはたくさんいます。しかし、彼らの顔を忘れることはできませんし、彼らの新しい顔をいつか見ることができると思い、その日を楽しみにしています。

現在、私は広島大学大学院の博士課程後期に在籍しています。ここにもいろいろな顔があります。これから様々な顔を見ながら、自分を磨いていきたいと思っています。

最後に、広島工業大学並びに同窓会の今後一層のご発展をお祈り致しまして、筆をおきたいと思います。

昭和62年電子工学科卒業 **鈴木 文寛**

広島大学大学院博士課程



昭和62年3月に広島工業大学電気工学科を卒業し、現会社に就職して4年が過ぎました。

私の会社では、OA機器のハードウェアおよびソフトウェアの開発・設計を行っております。代表的な商品をあげますと、ノート型パソコン「ダイナブック」や日本語ワープロ「ルボ」があります。

現在の仕事は、これらのOA機器の開発・設計とは全く異なり、日本語文書解析の研究を行っています。日本語解析とは、一体何のことなのだろうかとと思われる方が多いかと思いますが、一言でいいますと、機械に人間が書いた文書を理解させてしまおうという研究です。日本語を解析するには文法が必要となります。名詞・動詞・格助詞・連体形・下二段活用…。工学部出身者が最も不得意とする分野ではないでしょうか。しかし、4年もこの仕事をすれば面白くなってきます。

この分野の研究では、世の中の最先端を突き進

夢に向かっ

んでいます。毎日が勉強です。勉強といっても参考となる本は出回っておらず、逆に本になっているものは最先端の研究とはいえません。絶えず学会や講演などに注目し、世の中の動向をチェックしなければなりません。研究は、柔軟な発想と自らが夢を持つことが必要です。私は、その夢に向かって一日一日研究に励んでいます。技術者は、夢を持ち続けることが大切だと考えています。

最後に、今後の広島工業大学並びに同窓会の御発展をお祈りいたしまして会員だよりをしめたいと思います。

昭和62年電気工学科卒業 **中本 幸夫**

東芝コンピュータエンジニアリング株





私が機械工学科を卒業し、この会社に入社した

のが4年前でした。入社し、配属された部署は、生産技術係でありまして、主にCADを利用しての専用機械の設計でした。専用機械の設計と言いましても、設計者のアイデア次第で機械のコストが高くなったり安価に出来るりますので、設計者は、極力安価に作れる様に神経を使っています。また、企業の努力も目覚ましいものがありまして、コスト低減の為の長年のノウハウをコンピューターへそそぎ込み、それをオペレーターが取り出しては、新しいアイデアを結びつけては、利用すると言うものでした。また、この値にも私は試作品の製作、検討と言った事も行ったりしまして、とても忙しい毎日をごしております。ただ忙しいだけに、何度も自分を見失ない、挫折しそ

新しく卒業される皆さんへ

にもなりましたが、この会社には、非常に多くのOBの方がいらっしゃる、いつも心優しくはげましていただき、とても感謝している次第であります。そこで私が社会人になり、今まで学んで来た事を、恥ずかしながら述べますと、新しく何か始めようとする時には、必ず、困難、苦難が待ちうけていると言う事です。ですが人間あきらめず努力する事により、必ずや明日が見えて来ますので、新しく卒業される皆さん、また新しく社会人になれる皆さん、ぜひがんばって皆さんの力で、すばらしい社会にしようではありませんか。そしてOBの皆さん、この社会人に、優しく、きびしい指導の程、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

昭和62年機械工学科卒業 住田 修浩
㈱東洋シート



長崎県の平戸島と生

月島の間に建設中のトラス橋「生月橋」(全長960m)の橋桁の

最終架設工事が平成2年7月30日に終わり、2つの島が結ばれた。平戸島と本土の間にはすでに「平戸大橋」がかかっており、隠れキリシタンで知られるロマンの島「生月島」に本土から直接乗り入れができるようになる。

「生月大橋」は橋桁全体を3つのブロックに分けて組立て、両端の側径間を橋脚に乗せ、中央部を側径間の橋桁で支える方式。側径間S₁、S₂の2ブロックは長崎県の三菱重工長崎造船所で製作し、16,000TON積の台船「菱洋」、同じく16,000TON積の台船「深洋」の上でそれぞれ組立てられ、架設現場まで海上輸送し、3,600TON吊起重機船「武蔵」にて

生月大橋

平成2年5月6日にS₂ブロック、同年5月8日にS₁ブロックの架設を行った。中央径間M₁(長さ225m・重量1,650TON)は長崎県佐世保の佐世保重工業で製作され、7月28日「武蔵」にて台船「菱洋」に搭載し、架設現場まで輸送された。M₁の架設は平成2年7月30日S₁・S₂と同じく「武蔵」にて行われ、中央径間400mという同型トラス橋としては世界最長の橋が繋がった。

同橋は平成4年7月完成予定だけということである。私はこの工事に平成3年4月から7月末までに携わったが、完成したら是非、妻と子と共に3人で再び生月島に「生月大橋」を渡って行きたいものである。

昭和63年土木工学科卒業
中野 巖悟
深田サルベージ建設㈱



会員だより



会員だより

建 築学科を1972年に卒業（佐藤立美研究室）した村上徹さんが、第7回吉岡賞と第2回JIA新人賞をダブル受賞して業界の話題をさらっています。

住宅設計の新たな展開と交流に大きな役割を果たす新人奨励のため「新建築」に掲載される作品の中から、建築設計の将来に優れた可能性を感じさせる新人を表彰する吉岡賞とそして時を同じく、新日本建築家協会が1990年（第2回）のJIA新人賞を発表し、この二つの栄えある賞を村上さんが一人じめしたわけです。吉岡賞の対象作品「中山の家」はコンクリート打放しの作品の中では群をぬいて美しいことが評価され、地方に根ざした建築家としてのその将来が大いに期待されています。JIA新人賞の「坂町のアパート」も新進気鋭の建築家としての実力が認められた結果でした。

村上徹さんは、「中山の家」が受賞作品に決定し

とびつくす 建築学科

た際のJAhouseの紙面に次の様な感想を語っておられた。

「80歳を過ぎたお年寄り夫婦は、計画道路拡張のため半分に減る敷地図を手に『私たちはこの2階に住みたい』と元気に語ってくれた。後で考えればその一言が住宅の骨格を決定してしまったように思います。昔、南側にあった小山のこと、河川と水、風、交通のこと、そして永く積み重ねた土地の将来像までも…。ここでは場所性をそのまま表出させたオブジェクトのようなすまいをと考えました。広島に住み、一定の地域の仕事を通して場所性から感じ取れるもの、あるいは特殊性を見抜く力を養い、建築の本質を問い続けたいと思っています。また、吉岡賞、考えもしなかったことなので驚きました。ありがとうございました。」



経営工学創設25周年に参加して

平成2年度の入学生を迎えることにより、25年目が巡ってきた。久し振りに愚友と楽しもうというつもりで、昨年8月12日の経営工学開設25周年記念大会に参加した。広島グランドホテルを会場として開催され、記念講演として、『国際化時代に思う』と題したマツダ株式会社・取締役会長ロータリーエンジン開発で有名な山本健一氏の講演があり、国際化の中での今後の日本の在り方についての話があった。引き続き母校、鶴巻学長の『私立大学の存在意義について』と題してご講演があり、社会人としてのやるべきことを改めて認識した次第である。

300人余りの参加者の中での懇親会は、大会委員長 圓見康夫教授の挨拶で始まり、鶴巻学長、永見憲吾同窓会長から祝辞をいただき、鶴巻学園常務理事の乾杯の音頭で開宴となった。会場は身動きも取れないほどのもので、先生方への挨拶も順番待ちと言う状況であった。昔の苦しい思い出や失敗話、お互いに話に花が咲き、友達はいもんだなど感じ帰途についたわけである。

昭和45年経営工学科卒業 薨 南無男
広島工業大学経営工学科





とき
時間は絶ゆることなく
自分の歴史が作られる

歴史

追いたてられようが
寝ていようが

今は、1991年1月31日。今の日本は年始にして厳冬の時。しかし、考えてみると南半球は夏だし、炎天下に正月を迎える国も多い。歴とは妙なものだと思った。

絶え間ない時間の流れを、人間に都合よく区切ったのが歴である。

最初、誰がどう考えたかは知らないが、何千年もの間、太陰歴、バビロン歴、太陰太陽歴、と考えに考えてできあがったのが、現在我々の用いている太陽歴である。

昔はずいぶんいいかげんな歴があったようだ。月の周期から29日と30日の月で12ヵ月を作ってみた。しかしこれでは、1年に354日にしかならないので、実際の1年には11日以上不足する。そこで3年に1回閏月をおいて、13ヵ月としてつじつまを合わせた。これが太陰歴。

ローマのシーザなどは、長期間の遠征から帰国したとき、季節と歴がまったく合っていないのに気づき、その年を445日にして調整したという。



それほど、昔の歴は、悪く言えばいいかげん、良く言えばおおらかだった。

今の太陽歴はかなり合理的である。しかし、年始の決め方にはあまり意味はないようだ。(決めた人はどうか知らないが)

私の場合この太陽歴で勘定すると、社会人スタートからかぞえて21年の歴の史となる。

この間、閏月を作ったり、適当に日数を増すことなど思いもよらないコンピュータなるものを取り組んできた。

コンピュータもFACOM 231からはじまり、HITAC-8150、M-160、M-200H、M-280Dとつづき、今は、大学の新事務システムの開発で、新しく事務専用機(M-630)が導入され、日夜太陽歴に追いまわられている毎日である。

追いまわられようが寝ていようが、時間は絶え間ない。自分の歴史が作られる。

司馬遷は、皇帝の激怒をかい、「宮刑」により去勢の手術を受け、恥をさらしてなお、15年を費やして「史記」を書いた。呉の孫武すなわち孫子は足切りの刑を受けて兵法を編み、韓の韓非は幽閉されて「韓非子」を書いた。

彼らに比肩することなどとうていできはしないし、歴史に残ることなどもとてもできはしないが、せめて自分の歴史は大切にしたいものである。

広島工業大学電子計算機センター

近 宗

貴

とびくすHIT1991



年々多彩になる 教育懇談会

平成三年度の教育懇談会の概要が決まりました。

来年度も今年度と同様、四年次生・父田対象の就職・進路相談会、一年次から三年次までの父田を対象にした教育懇談会、又全父田を

招いての後援会総会、懇親会、そして高校の先生方多数をお招きしての入試説明会など、本学の各会場で多彩に開催されます。また松山、岡山、福岡など八つの地方会場では高校の先生方対象の入試説明会と重なりあわせて懇談会、後援会報告会、懇親会が行われます。

昨年五月の広島工業大学での教育懇談会では大学内の教育設備の見学や各学科に別れての懇談があり、県下は勿論、遠くは香川県や福岡県からも多数の父田がキャンパスを訪れ、子女の曰頭の大学生生活を垣間見て、教育環境と設備の充実を目に見えり大変満足してお帰りになりました。また学科懇談会では、各学科共、学年次担当の先生方と個別に親しく懇談して、我が子の成績状況や将来の就職先などを具体的に話してあつたという声やいました。教育懇談会の日程、地方会場でのスケジュールなどの詳細については広島工業大学・教育情報部へお問い合わせください。

平成三年度も オリ・セミは船上で

昨年四月、内外ともに大変な反響を呼んだ、本学の新入生歓迎行事、船上オリエンテーション・セミナーが、今年の春もまた瀬戸内海に繰り出すことになった。昨年のさんふらわーに変わってサンシャインふじハ、〇〇〇トンガ子船港に約一、〇〇〇名の新入生を迎え持つ。目標は前半の太田組（電子・建築・経営）が四月の（一五・二六日、後半の富士組（電気・機械・土木）が六・二七日の予定である。



大学院社会人 特別選考のご案内

広島工業大学・大学院では、二一世紀において国際的に生きる科学校術者の育成をめざして、平成三年度の入学試験から社会人特別選考を実施しました。

社会人特別選考の出願資格は、大学を卒業し、同一の企業などに一年以上勤務中の方で、その職務成績が優秀であると所屬長に認められ、在職のまま入学を希望される方」となっています。大学院では実社会での経験を持つ卒業生の方々に積極的に門戸を開き、時代のニーズに沿った教育研究を行い、より高度な研究技術者として再び世の中に送り出したいと願っております。現在、最先端の知識の修得の必要性に迫られている立場の方々にこそお問い合わせになると思えます。

なお、大学院工学研究科（修士課程）の社会人特別選考の試験は、九月と三月に実施されます。詳しくは学務部教務課へお問い合わせください。

とびくすHIT1991

女子学生が 増えました。

増えました。

そもそも、我が広島工業大学は男子学生の独壇場でした。オリゼミでも大勢でも美壮な裸踊りが売物で、全学生中、一五名ほどしか存在しなかった女子学生たちは、だがいによりそって教室の隅で細々と勉学に励んでいました。しかるに躍進する時代の波長に乗って、企業のあらゆる分野に女性の仕事場が拡大されるにあふい工学に新しい活路を見出したテクノレディ達が、電子計算機工学などものともせず、じゃんじゃん進出してきた

のです。すでに全学科で二〇〇名突破しており、そして平成三年度も約五〇名の入学者がまじまじにいます現状から、まもなく総学生数の一割を女子学生が占める日もそう遠くはないでしょう。大学側も



受入れたいせいに大わらわで男子トイレを女子の美しい化粧室に改装するなど女子学生の生活環境を整備しはじめました。

二つの学会が秋の キャンパスを飾る

電子情報通信学会の90年秋学全大会が一〇月一日から四日間の日程で本学のキャンパスで開催され、光通信、情報ネットワークなど七部門で計二二七件の発表があり、連日二、〇〇〇人余りの会員で賑わった。そしてそれが終わるや、あくる五日から七日までの三日間、今度は全国から建築家



や学者、技術者ら約六、〇〇〇人が参加した一九九〇年度日本建築学会が全キャンパスを埋めつくして開催された。広島では二年ぶりのこの学会は超豪華ビルなどの大スパン構造といった最新情報など四、〇七七題に及ぶ研究論文の発表があった。広島工業大学の絶好の教育環境と充実した施設設備に目をみはり、また秋期休暇中だったにもかかわらず皆さんの学生達がアルバイトとして参加し、いずれも成功裡に二つの学会が終った。



在学生だより



第31期広島工業大学 学生自治会執行部発足 自治会会長 横山 哲也

この度、第31期自治会執行部が発足しました。

第31期自治会は30年という歴史を越える為に、再び問題提起をして自治活動とは何かを求めて行きたいと思っております。

今、自治会の問題としては第一に学生の自治離れ、次にサークル活動の活性化、そして執行部員の確保といろいろな問題点を持っています。しかし、今期は全行事に関して変えられる所は全て変更して上に掲げた問題に対処していきたいと思っています。そして、また今期は自治会費の値上げを考えていてその報告書も執行部員全員で制作にあたっております。

次に工大祭を始めとする諸行事は他大学を越えて、大変素晴らしいようになっていて、それを越えることは大変なことですが絶対にやり遂げますので、今年の一回り大きくなった工大祭をご家族連れ、また恋人同志で是非、ご来場下さい。そして、学生時代を思い出しゲームや企画を楽しんでもらえば大変嬉しいですよ。

第31期の自治会執行部は5人という少人数で発足しましたが、30年という歴史を越えようという者ばかりですので期待して下さい。そしてOBの方々の意見もその中に加えて工大を一層飛躍させたいと思っておりますので是非ご意見を聞かせて下さい。

第16期体育会本部の発足にあたって 体育会本部長 打 猶 剛

こんにちは、第16期体育会本部が平成2年12月1日より誕生いたしました。体育会では先輩達もごぞんじの通り、駅伝、競開き、スキーツアー、体育祭、スポーツ講演会などの数多くの行事があります。今年のスキーツアーは毎年大山が3月には雪不足の為、思い切って長野の志賀高原へと場所を変えました。自分が下見に行ったのですが、やはり大山とはちがう雪質におどろき、またゲレンデのはなやかさにみとれて、この3月5日より行われるスキーパーティーをととても楽しみにしております。また5月に行われる体育祭も学科対抗から一般参加へと大きく変わりました。昨年からオリゼミが沼田校舎からクルージングに変わったように我が体育会も少しずつ変わっていきます。今まで先輩達が築き上げたものを深く考え、そしてよりよいものにしようと本部員21名で一生懸命考えた結果なのです。このスキーツアーにしても体育祭にしても、やってみないことには何が良くて、又何が悪いのか分かりません。よろしければ先輩方に見ていただき、そして意見や感想を聞かせていただければ、とてもうれしく思います。

今年の本部には2年目の本部員が2人と、3年目の本部員が2人います。この4人が先頭になり又後押ししたりして、先輩から受けつた伝統を重んじ、又現代に合う体育会をつくろうと21名でがんばっています。卒業されても、我が体育会をどうぞよろしく願います。

〈支部結成のために必要とされる手続き〉

- 1) 支部結成発起人 (氏名・卒業年度・学科など)
- 2) 支部所属会員名簿 (同上)
- 3) 支部則案 (見本があります。参考にして下さい。)
- 4) 支部事務局となる連絡場所 (代表者・連絡先住所・電話番号など)
- 5) 正式に支部として承認されましたら、支部則にもとづき支部長等役員名簿を本部に届ける。

支部結成のための連絡先

〒731-51 広島市佐伯区三宅2丁目1-1

広島工業大学同窓会本部事務局

TEL (0829) 21-3121

同窓会地域・地区支部の連絡先 (支部長) 紹介

〈地区支部〉

A 1 関東支部

〒333 埼玉県川口市戸塚5-18-21

上村 忠 (45年電子卒)

ファコムハイタック (株) (0482) 95-8059

A 2 近畿支部

〒533 大阪市東淀川区豊里5丁目17-1

馬頭 陸夫 (42年電子卒)

木村化工機 (株) (06) 488-2501

A 3 岩国支部

〒740 岩国市岩国2丁目17-18

田原 亮治 (45年建築卒)

岩国市役所 (0827) 22-4141

〈県支部〉

B 1 長崎県支部

〒857-11 佐世保市大塔町1246つくも宿舎202号

井出 俊彦 (43年機械卒)

佐世保少年院 (0956) 31-8277

B 2 徳島県支部

〒779-31 徳島市国府町和田字居内144

木村 和男 (44年建築卒)

ケイ・エム建設 (0886) 42-0895

B 3 香川県支部

〒763 丸亀市山北町679-2

石川 計幸 (45年建築卒) 名誉顧問

石川一級建築設計事務所 (0877) 23-4564

B 4 宮崎県支部

〒889-19 宮崎県北諸県郡三股町樺山4227-5

谷口 忠光 (43年機械卒)

都城東高等学校 (09865) 2-1010

B 5 島根県支部

〒733 広島市西区井口3-15-1 日立社宅C-201

折田 昌弘 (38年電子卒)

日立製作所 (082) 222-3278

広島工業大学同窓会 地区、県、職場支部の結成状況

〈支部結成〉 〈地区、県、職場〉 〈支部名〉

(平成2年11月現在)

- 年 月 日
- A 1) 昭和44.7.13 地区 関東支部(A1)
- A 2) 昭和50.4.1 地区 岩国支部(A2)
- A 3) 昭和53.9.20 地区 近畿支部(A3)
- B 1) 昭和54.10.20 県 長崎県支部(B1)
- B 2) 昭和54.12.1 県 徳島県支部(B2)
- B 3) 昭和54.12.2 県 香川県支部(B3)
- B 4) 昭和57.6.19 県 宮崎県支部(B4)
- B 5) 平成3.3.16 県 島根県支部(B5)
- C 1) 昭和54.4.22 職場 ツーエ建設所(C1)
- C 2) 昭和54.4.22 職場 中国電機製造(C2)
- C 3) 昭和54.4.22 職場 大協株式会社(C3)
- C 4) 昭和54.4.22 職場 中国電力機(C4)
- C 5) 昭和54.4.22 職場 油谷重工業(C5)
- C 6) 昭和54.4.22 職場 三建産業機(C6)
- C 7) 昭和56.9.26 職場 愛電産機(C7)
- C 8) 昭和57.3.20 職場 南誠和(C8)
- C 9) 昭和57.6.5 職場 三次電機機(C9)
- C 10) 昭和57.6.5 職場 マツダ機(C10)
- C 11) 昭和57.11.27 職場 広島県信用金庫(C11)
- C 12) 昭和59.1.21 職場 樹林竹製作所(C12)
- C 13) 昭和60.3.1 職場 広島市役所支部(C13)
- C 14) 昭和61.6. 職場 愛明技研所(C14)
- C 15) 昭和61.10. 職場 宇日市役所支部(C15)
- C 16) 昭和61.11. 職場 中国電力工務機(C16)
- C 17) 昭和62.12.12 職場 シヤヤ機組機(C17)
- C 18) 昭和63.5.13 職場 西川化成機(C18)
- C 19) 昭和63.6.27 職場 広島市清野機(C19)
- C 20) 平成1.4.22 職場 DAIKIN製作所(C20)

- C 21) 平成2.4.21 職場 ホーコス機(C21)
- C 22) 平成2.7.27 職場 福山市役所(C22)
- C 23) 平成2.7.27 職場 柿ヒロテック(C23)

(A)○地区支部…3

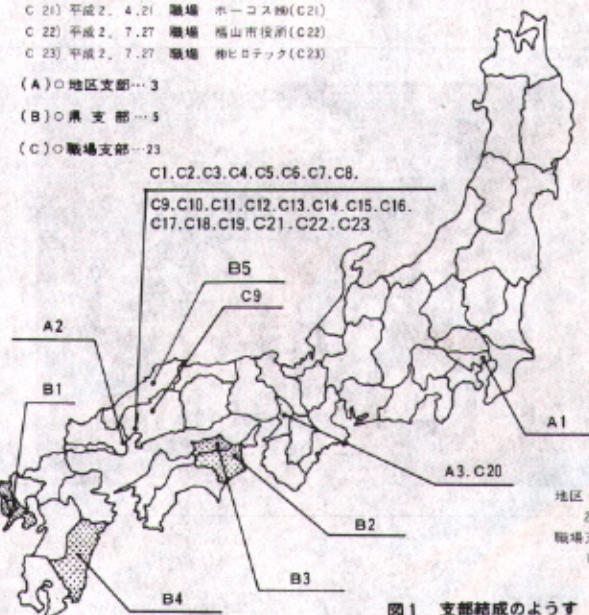
(B)○県支部…5

(C)○職場支部…23

C1.C2.C3.C4.C5.C6.C7.C8.

C9.C10.C11.C12.C13.C14.C15.C16.

C17.C18.C19.C21.C22.C23



地区・県支部
20名以上
職場支部
10名以上

図1 支部結成のようす



職場支部 発会式

職場名
福山市役所
所在地
〒720 福山市東桜3-5
TEL 0849-21-2111
発起人氏名(代表者2名)
三宅 実
(S47年3月電子工学科卒)
田口 直樹
(S51年3月建築学科卒)

支部だより

平成2年7月27日(金)、午後6時から福山市役所職場支部の発会式が、市内「八十吉」で開かれました。

機械工学科を除く5学科卒業生19名全員出席され大盛会でした。

同窓会本部から出席された永見会長の挨拶、最古卒業年度44年の松本省三氏の音頭で乾杯した後、歓談に入りました。

途中、支部規約の承認と役員選出が行なわれ、松本省三氏が支部長となりました。

殆どの方が身近の数名の同窓生は知っていたが、こんなに多数いるとは、ということでびっくりされ、この会を通じて仕事の面、また同窓の和が強く結ばれることを確信致しました。

同支部の今後の発展とご活躍を期待します。



平成2年10月20日(土)、本学の吉田幹事長に同行して長崎駅を降りると、すでに長崎支部から山本幹事長が我々を厚く出迎えて下さいました。

在学中は少林寺の主将をされており、きびきびとした礼儀正しさがとても印象的です。

午後6時、開催場所の出島会館には、来賓として本学から島学猪部次長が見えられ、総勢18名による総会が行われました。

山本幹事長による議事進行により、はじめに井手支部長の挨拶、苦難にも負け

職場支部 発会式

職場名 株ホーコス

所在地

〒720 福山市草戸町

2-24-20

TEL 0849-22-2600

発起人氏名(代表者2名)

土居田和男

(S46年3月機械工学科卒)

笹部 恵司

(S60年3月電気工学科卒)



平成2年4月21日(土)、福山に本社をおくホーコス株式会社の職場支部発会式が、福山グランドホテルで17時30分から行われました。

4月現在、機械工学科14名、経営工学科3名、電気工学科2名の合計19名の卒業生で構成され、昭和45年3月に卒業された塚本隆雄氏が支部長となりました。

大学からは水田学務部長、榎教授、府川教授、荒巻教授、また会社から菅田取締役社長、神野取締役も同席されました。

各先生方、社長さんから支部設立のお祝い、激励並びに同窓生への期待の言葉を頂きました。

その後、カラオケも準備され、一同和やかな歓談の一時を過ごし、盛会のうちに会は終了しました。

第12回長崎県

支部総会に参加して

副幹事長 古川 博仁

(昭和54年機械卒)

ず本部への協力を十数年行ってきたこと、またいよいよ長崎県支部は地区単位での活動へ踏み切ったことなどが、長崎弁によって紹介されました。

在学中は自治会長をされており、さすが長崎県支部の大黒柱といった貫禄です。

島学生部次長からは、今年度の本学の活動内容が「広島工大」新聞を使ってなされ、さらに工大への入試アピールがなされました。

長崎出身の島先生だけに、地元長崎から工大への思いは一層強く感じられました。

活動報告、会計報告の後、新役員の紹介があり、志田幹事長、山田副幹事長のもとに、8名の地区幹事長をおく新体制が発表されました。顧問には福田氏となり、長崎県支部の一層の飛躍が期待されます。懇親会では、20年来の再会という漢崎氏と、平谷氏、山崎氏の三友愛が復活するなど、熱き長崎の同窓の友の心意気を存分に味わわせて頂きました。

ここに厚く御礼申し上げます。

平成2年度の寄付金総額 698,305円!

常ながら皆さまのご芳志に 心から感謝いたします

全国、全学科から届けられる皆さまの暖かい寄付金は同窓会奨学生の財源となり、毎年同窓会奨学金として苦学する後輩の支えとなっています。平成2年度は次頁に掲載の15名の学生が同窓会奨学生に決定されました。

しかしながら、諸物価高騰の折衝、一人当たり月額3,500円の金額の見直しをせまられている現状です。これらの資金確保のためにも、今後一層のご協力をお願いいたします。

寄付者ご芳名一覧

(敬称は略させていただきます。学科別受付順掲載)

自 H.2.1.1 至 H.2.12.31

電子工学科

古本克之
赤井健
津村光恒
加藤政治
遠原秀基
杉原正洋
中曾正夫
小島修二
児玉健史
坂根晃
香川直喜
和田純一
柳生哲男
貞弘正美
上弘博正
山崎昭一
小田野一
中野真
平賀保彦
桑田敏彦
山下二郎
坂井希幸
田中重光
笠木康孝
郷田英訓
鶴田義則
渡田榮一
中西正己

戸倉博顕
浴繁哲
赤羅正光
山中英明
嶋津敏明
井手潤勉
松浦泰夫
河上浩一郎
内藤恵司
藤永武夫
片岡誠二
筒井誠二
木村悦郎
門田重紀
中村敏明
中川野義孝
柴田安助
則嶋進男
手谷川昇
谷宮博之
松本繁
奥田富雄
河台章雄
白鳥孝司
山根康彦
麓谷久一
東田多須夫
岡田真

大塚茂
佐藤明
横田英昭
森田正治
梅田一平

井上陽
土肥義昭
入野康彦
田口誠一郎
温田将彦

電気工学科

可知英樹
井上岩光
坂田匠
芳原誠士
熊谷靖夫
広川精二
宮地浩明
増田靖夫

機械工学科

井林幹雄
松本秀麗
斉藤祐之
熊本一夫
中国野剛
山實辰雄
三本一男
今井信明
井章文

河野宏行
栗栖律郎
藤永武夫
梶原康範
佐藤勝彦
松尾孝
杉垣誠
木野秀一
砂川聡
三原明
横村義彦
青影和成
辻初夫
菊地浩二
吉田学
多田羅宏
實升三
谷本優重
向井和恵
石井智
瀬川恵二
楠同雄
平上真昇
佐井雅一
村井井久
荒井井伸
岡田田隆
山岡博
浦木靖司

久洋 俊正 司治 一志 正匡 典俊 一郎 男 昭明 誠一 平文 司三夫 志一 也久
 尚邦 成康 雅正 浩弘 一隆 昭俊 幸惠 正忠 周良 雅幸 二喜代 浩悦 勝
 本島 原谷 川田 本尾 川貫 元原 田筒 木々 本邊 隅田 山高 本間 谷森 上川
 森永 河長 橋広 山牛 小佐 橋藤 松井 佐々 平西 田山 山高 本堀 何池 白

治譽 和明 起明 治司 也一 靖作 之一 一郎 郎子 昭仲 一郎 成行 樹弘 夫一
 幸史 正英 英久 德信 寿収 清真 弘太 一る 若兼 一義 和芳 孝周
 田多 川保 田玉 野田 田原 谷井 坂島 崎堀 元田 井藤 田田 巻賀 隅田
 住本 寺久 児河 宮木 萩荒 藤野 泉福 岩金 木有 下向 伊錦 山鶴 平大 古

滋信 征治 宏真 宏炎 朗苑 夫介 武雄 信也 男雄 行範 行之 宏一郎 彦
 井原 武康 年義 光圭 卓嘉 哲哲 博正 康和 一武
 藤安 大深 内堀 福高 貝五 今白 藤村 松中 馬伊 森長 上境 大景 加猪
 井原 西川 藤田 光森 原弓 野砂 原村 村越 藤田 光境 田山 藤上

基彦 大二 彦士 幸泰 人
土木工学科
 瀬山 根田 口部 原山 沢藤 近馬 場居 津原 屋嶺 根藤 本下 脇保 尾尾
建築学科
 富一 俊誠 宣敬 正洋 久明 榮博 一満 義

平成2年度同窓会奨学生

901132	升間 祐一	896024	江角 博志	901007	池田 信義
893101	笹川 和以	893258	安松 保志	903194	弥益 裕司
894041	佐伯 直紀	883055	岡田 浩二	892038	国久 忠司
873216	山中 敏彦	901043	梶原 康寿		
895043	河本 雄二	873084	佐伯 博		
883023	稲葉 久尚	891007	岩井 昌彦		
				以上	15名

計報

ご逝去の旨、連絡をいただいた会員の方々です。謹んでご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

466015 上野 一美 H2.9.14 564077 濱口 正信 H2.10.15
 413300 和氣浩一郎 865134 橋本 泰臣 H3.1.31

平成 2 年 度 議 事 録

幹 事 会

◎第 1 回幹事会

平成 2 年 5 月 10 日(木)

- 議題 1. 役割分担について
2. アルバイト雇用について
3. その他

◎第 2 回幹事会

平成 2 年 7 月 3 日(水)

- 議題 1. 会報編集について
2. 会報発行に伴う補正予算について
3. 平成 3 年度入試への協力について
4. 会議日当等、会則・内規の改正について

◎第 3 回幹事会

平成 2 年 9 月 20 日(木)

- 議題 1. 奨学生選考基準について
2. 名簿関係作業について
3. 会誌編集について
4. 大学との委員会について
5. 平成 3 年度総会について
6. その他

役 員 会

◎第 1 回役員会

平成 2 年 4 月 7 日(土)

- 議題 1. 報告事項
2. 平成 2 年度役員案について
3. 平成 2 年度予算案について
4. 平成 2 年度活動方針案について
5. 第 25 回総会・懇親会について

◎第 2 回役員会

平成 2 年 6 月 2 日(土)

- 議題 1. 役割分担について
2. 会誌・会報の大学との連携について
3. その他

◎第 3 回役員会

平成 2 年 7 月 11 日(水)

- 議題 1. 会報編集について
2. 平成 3 年度入試への協力について
3. 会議日当、会則・内規の改正について
4. その他

◎第 4 回役員会

平成 2 年 9 月 22 日(土)

- 議題 1. 平成 2 年度奨学生選考について
2. 名簿関係作業について
3. 会誌第 25 号編集について
4. 大学との委員会について
5. 平成 3 年度総会について
6. その他

広島工業大学同窓会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は広島工業大学同窓会（以下本会という）と称する。
- 第2条 本会は本部を広島工業大学内に置く。但し総会で必要と認めた場合に支部を置く事ができる。
- 第3条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校の発展に貢献することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的達成のため次の事業を行う。

- (1)集会
- (2)会員相互の連絡並びに共助に関すること
- (3)会誌、会報及び会員名簿の発刊
- (4)母校に対する精神的・物質的援助
- (5)その他本会の目的達成に必要なこと

第2章 会 員

- 第5条 本会は下記の者を以て組織する。

- (1)正会員 広島工業大学工学部、同大学院工学研究科及び広島工業短期大学の卒業生で終身会費を納入した者
- (2)準会員 広島工業大学工学部、同大学院工学研究科の在學生で入会金を納入した者及び役員会で適当と認められた者
- (3)特別会員 母校教職員及び旧教職員

第3章 役 員

- 第6条 本会は下記の役員を置く。

名誉会長	1名	会 計	3名
会 長	1名	会計監査	3名
副 会 長	2名	書 記	2名
幹 事 長	1名	幹 事	若干名
副幹事長	2名	評 議 員	若干名

- 第7条 本会の役員は次の方法で決める。

- (1)名誉会長は広島工業大学学長を推す
- (2)会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計、会計監査、書記、幹事、評議員は総会で正会員の中から選出する

- 第8条 役員の任務は次のとおりとする。

- 会 長 本会を代表し会務を統べる。
- 副会長 会長を助け会長に支障があるときはその任務を代行する。
- 幹事長 会務を主宰する。
- 副幹事長 幹事長を助け幹事長に支障があるときはその任務を代行する。
- 会 計 会計事務にあたる。
- 会計監査 会計を監査する。
- 書 記 会議の議事をとる。
- 幹 事 会務を処理する。
- 評 議 員 会務を評議する。

- 第9条 役員の任期は1ヵ年として再任をさまたげない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、役員会の議を経て欠員を補充し、これによって就任したものの任期は前任者の残任期間とする。

第4章 顧問・相談役

第10条 本会に顧問、相談役をおく。

- (1)顧問、相談役は総会の議決により委嘱する。
(2)顧問、相談役は諮問に応ずる。

第5章 会 議

第11条 会議は定期総会、臨時総会及び役員会とする。

第12条 総会は本会の最高議決機関で、定期総会は毎年4月に開く。

- 2 臨時総会は役員会が必要と認めたとき会長が召集する。

第13条 総会は次の事項を決議する。

- (1)会則及び細則の制定及び改正に関する事。
(2)決算及び予算に関する事。
(3)役員の変更に関する事。
(4)その他重要な事項。

第14条 役員会は会長が必要と認めた時召集し、次の事項を協議又は決議する。

- (1)総会に附議する原案
(2)本会の運営に関する諸事項
(3)内規の制定及び改正
(4)その他緊急事項の協議

第15条 会議の議決は正会員の出席者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

第6章 会 計

第16条 この会の経費は終身会費、寄付金及びその他の収入をあてる。

- (1)本会の入会金は3,000円、終身会費は15,000円とする。
但し、一度納めた会費は返還しない。
(2)この会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
(3)その他の事項については別に定める会計細則による。

附 則

この会則は、昭和41年3月27日から施行する。

昭和41年8月17日一部改正	昭和53年4月29日一部改正
昭和43年8月17日一部改正	昭和56年4月29日一部改正
昭和44年8月4日一部改正	昭和58年4月29日一部改正
昭和45年8月2日一部改正	昭和59年4月29日一部改正
昭和46年4月25日一部改正	昭和63年4月17日一部改正
昭和50年5月4日一部改正	平成元年4月16日一部改正

広島工業大学同窓会会計細則

(目 的)

第1条 この細則は広島工業大学同窓会（以下本会という）の会計に関する基準を確立し、同窓会活動の円滑なる運営を図り、本会の健全なる発展に資することを目的とする。

(業 務)

第2条 会計は次の事務を行う。

1. 同窓会入会金（終身会費及び準会員入会金をいう）寄付金及びその他の受入事務
2. 予算に基づく支出負担行為事務
3. 帳簿類の記帳・保管
4. 会計に関する証拠書類の整理保管

(帳 簿)

第3条 会計には次の帳簿を備え常に経理の明確を計る。

1. 予算内訳帳
2. 予算項目内訳帳
3. 預金内訳帳
4. 収入内訳帳
5. 奨学金基金出納帳

(帳簿記入の原則)

第4条 帳簿はページ順に行い簡明に記入し原則として余白は残さない。

(帳簿の更新)

第5条 帳簿の更新は会計年度毎に行う。

(保存期間)

第6条 会計書類の保存期間は次の通りとする。

1. 決算諸表（永久）
2. その他の諸帳簿等（永久）
3. 領収書（永久）

(収納金の処理)

第7条 収納した金銭は同窓会長が特に認めた場合の外は指定の金融機関に預金しなければならない。

(支払い手続き)

第8条 金銭の支払いをする場合は請求書その他の取り引きを証する書類に基づき支払う。

(予算の補正)

第9条 会長は特別の事由により、予算実行に重大な支障を生ずるおそれのあるときは、役員会の決議を経て予算の補正を行うことができる。

(予算の遵守)

第10条 予算は忠実に実行されなければならないし、予算を超える支出をしてはならない。

(予備費)

第11条 予算外の支出又は予算超過の支出に充てるため予備費を設けることができる。

予備費は、役員会で否決した費途に充てることはできない。

(会計監査)

第12条 会計監査は、毎会計年度ごと会計監査員によって行われ、総会に報告し承認されなければならない。

(手 当)

第13条 役員及びその他同窓会運営責任者の手当は内規（一）旅費規程、及び（四）手当支給規程の定めるところによる。

(援助金)

第14条 準会員及び支部の援助金予算の支出は内規（三）援助金規程の定めるところによる。

(臨時雇用)

第15条 同窓会運営に当り、幹事会で臨時雇用の必要を認めた場合、会長の承認をもってこれを行うことができる。

臨時雇用に要する費用は内規（五）臨時雇用規程の定めるところによる。

附 則

この細則は、昭和48年4月29日から施行する。

広島工業大学同窓会内規

(一) 旅費規程

第1条 役員会及び幹事会出席役員に対しては、旅費及び日当を支給するものとする。

1. 旅費は役員の居住地より役員会及び幹事会開催地までの交通費とし日当は1,500円とする。
2. 使用交通機関は汽車、電車、バス、船舶の普通料金とする。役員は自己の使用交通機関を会計に提出し、承認を受けるものとする。

第2条 会誌その他、広告掲載のために広告取得する場合、交通費に当日の日当1,500円を加算し支給するものとする。但し、交通機関については会計の承認を必要とする。

第3条 その他の同窓会運営に関する出張に対しては、旅行保険をかけ旅費を支給するものとする。旅費は広島工業大学の旅費規程に準ずる。

第4条 支給された費用の領収は様式(1)をもって行う。

(二) 慶弔費規程

第5条 教職員の逝去に対する香典は、原則として10,000円を御霊前に供えるものとする。但し、金額は状況により変更できるものとする。

(三) 援助金規程

第6条 この規程は、大学学生部で認められた体育系及び文化系における学外行事への援助を目的とする。

申請は指定の申込書に必要事項を記載の上、同窓会に提出するものとする。援助の可否は年度予算の範囲内において、役員会の議をもって決定する。但し、1クラブに対して10万円を単位年度の援助金上限とする。

援助金は次の通りとする。

(1) 体育系クラブ

地域代表権を獲得し、且つ、日本選手権試合に相当する試合に登録された選手に対し支給する。

片道距離	援助額
100km未満	試合日数×2,000円×人数
100km～300km未満	(試合日数+1日)×2,000円×人数
300km以上	(試合日数+2日)×2,000円×人数

* J R五日市駅より J Rの距離計算に準ずる。

(2) 文化系クラブ

行事に要する費用	援助額
30,000円未満	5,000円
30,000円～100,000円未満	10,000円
100,000円～300,000円未満	20,000円
300,000円以上	30,000円

第7条 在学生主催の大学祭及び体育祭等に援助金を支給するものとする。但し支給額については年度予算範囲内において役員会で決定する。

- 第8条 支部に援助金を支給するものとする。但し、支給額については年度予算範囲内において役員会で決定する。
- 第9条 援助金を受けたい団体もしくは個人は指定の申込書様式2 a及び3 aをもって少なくとも、1週間前に申し出なくてはならない。又、行事の終了した1週間以内に報告書様式2 bを提出しなくてはならない。

(四) 手当支給規程

- 第10条 役員のうち会計に選出された者に対し、会計手当として年間総額15,000円を支給する。
- 第11条 同窓会役務担当者のうち、次の責任者には手当を支給するものとする。
- 会誌・会報発行責任者 7,000円
 - 名簿発行責任者 5,000円
 - 支部担当責任者 5,000円
- その他、手当支給が適当と認められた者は、役員会の議決を経て会長がこれを決定する。

(五) 臨時雇用規程

- 第12条 臨時雇用の費用は、雇用時の平均的な額とする。但し、役員会で議決を経て会長がこれを決定する。
- 第13条 臨時雇用の依頼は様式4 aをもって、依頼事務完了しだい様式4 bをもって報告するものとする。

附 則

この内規は昭和48年4月29日から施行する。

昭和51年4月29日一部改正
昭和56年3月14日一部改正
昭和56年4月29日一部改正
昭和57年3月20日一部改正
昭和58年4月16日一部改正
昭和59年6月30日一部改正
平成2年7月11日一部改正

広島工業大学同窓金奨学金給付規程

第1条 総 則

広島工業大学同窓会会則第1章第4条にもとづき、この規程を定める。

第1項 奨学生の資格

本会の奨学生となるものは広島工業大学に在学し、学資の支弁が困難と認められるものでなければならない。

第2項 奨学金の給付期間及び金額

奨学金の給付できる最長期間は正規の最短修業年限の範囲内とする。但し、奨学生については1年毎に新規出願者と併せ審議のうえ、継続給付の可否を決定する。

この期間中に給付する奨学金の額は次のとおりとする。

年額1人当り 42,000円

第2条 奨学生の採用と奨学金の交付

第3項 奨学生の願書の提出

奨学生志願者は本会あての奨学生願書を本会に提出するものとする。

第4項 奨学生の採用

奨学生の採用は同窓会役員会の選考を経て、会長が決定しその結果を大学を経て、本人及び保証人に通知する。

第5項 奨学金の交付

奨学金は毎年2回に分けて交付するものとし、大学を経て本人に送金するものとする。

第6項 奨学金の受領書の提出

奨学金の交付を受けた奨学生は、そのつど奨学金受領書を提出しなければならない。

第7項 生活状況の報告

奨学生は毎年度末に生活状況報告書を会長あてに提出しなければならない。

第8項 異動届出

奨学生は次の各号の1に該当する場合は直ちに届出なければならない。

1. 休学、復学、転学、または退学したとき
2. 停学その他処分を受けたとき

第9項 奨学金の休止

奨学生が休学または長期にわたって欠席したときは奨学金の交付を休止する。

奨学生の学業または素行などの状況により、指導上必要があると認めたときは奨学金の交付を休止することがある。

第10項 奨学金の復活

前項の規程により奨学金の交付を休止された者がその事由が止んだときは届出により奨学金の交付を復活することがある。

第11項 奨学金の廃止

奨学生が次の各号に該当するときは、奨学金の交付を廃止する。

1. 傷い疾病などのため成業の見込みがなくなったとき
2. 素行が不良となったとき
3. 前各号のほか、奨学生として適当でない事実があったとき
4. 在学中処分を受け、学籍を失ったとき
5. 奨学金を必要としない理由が生じたとき
6. その他第1項に規定する奨学生としての資格を失ったとき

第12条 奨学金の辞退

奨学生はいつでも大学を経て奨学金の辞退を申し出ることができる。

第3条 補 則

第13項 実施細目

この規程の実施について必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は昭和51年4月29日から実施する。

平成元年4月16日一部改正

広島工業大学同窓会奨学生選考内規

1. この内規は「広島工業大学同窓会奨学金給付規程」第3条第13項にもとづいて奨学生の選考内規を定める。
2. 家計状況の順位は原則として日本育英会の基準に準じて決める。但し、提出書類の記載内容と実情の差が大きいと認められる場合はその限りでない。
3. 選考にあたっては必要に応じて、会長が面接を行う場合もある。
4. 人物に特に好ましくない点がある場合は選考の対象としない。
5. 学業成績不良のため、出願時受講制限を受けた者は選考の対象としない。
6. その他

給付する奨学生の定員は年度予算の範囲内とする。

附 則

この内規は昭和51年4月29日から実施する。

会誌発行者 広島市佐伯区三宅二丁目1-1

広島工業大学同窓会

本館 4 F

T E L (0829) 21-3121

内線 (570)

表紙題字 鶴 裏 筆

発行責任者 永 見 憲 吾

編集責任者 経 営 工 学 科

印 刷 所 陶ハローデンイン

広島県佐伯郡大野町梅原一丁目
3番2号

電 話 (0829) 55-2201代



同窓会誌にたいするご感想をお寄せください。また、みなさまの近況報告などお待ちしております。

広島工業大学
同窓会誌第25号

発行 広島工業大学同窓会
編集 広島工業大学同窓会編集委員会
731-51 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
広島工業大学内広島工業大学同窓会
(電)0829-21-3121 内線570